

令和3年度「市区町村におけるがん検診チェックリストの 使用に関する実態調査」結果概要

1 回収状況

54市町村全てから回答有。(回収率 100%)

2 年度別全項目実施率について (別添資料3-3)

資料3-3は、令和元年度から令和3年度までの全国及び千葉県のチェックリスト全項目実施率の推移について示したものであり、以下のような傾向がみられた。

- 令和2年度は、乳がん(個別)、子宮頸がん(個別)以外のがん種において、令和元年度のチェックリスト実施率を下回った。令和3年度には回復傾向が見られ、集団検診・個別検診共に、全てのがん種で令和2年の実施率を上回った。
- また、令和3年度は、胃がん検診(内視鏡検査)を除いて、集団検診、個別検診共に令和元年度のチェックリスト実施率を上回る結果となった。
- 個別検診は集団検診に比べ、チェックリスト実施率が全般的に低い傾向がある。
- 平成28年度から導入された胃がん検診(内視鏡検査)では、導入当初の実施率は29.8%であったが、令和元年度は87.7%まで上昇し、全てのチェックリストの中で一番高い実施率を示した。令和2年度は、80.2%まで低下したが、令和3年度には85.3%まで回復した。

3 令和3年度の実施率について (別添 資料3-4)

資料3-4は、集団検診及び個別検診のチェックリストの各項目について、全国と千葉県の実施率をまとめたものである。数値が網掛けになっている項目は、千葉県の実施率が全国の実施率を10%以上下回っている。

<実施率が低い項目(集団・個別共通項目)>

問 1-2 対象者全員に、個別に受診勧奨を行いましたか

問 4-3 個人毎の精密検査方法及び、精密検査(治療)結果を、市区町村、
検診機関(医療機関)、精密検査機関が共有しましたか。

4 市町村別の実施率について (別添 資料3-5～3-6)

資料3-5は市町村の回答を一覧にしたものであり、資料3-6は市町村別の実施項目数を積み上げグラフで表示したものである。全ての検診において、市町村により実施状況に顕著な差がみられる。